1．ソフト面・ハード面別の投票結果

（1）ソフト面での結果

順位	ジャンル	グループ	分類	意見内容	票数
1位	人員確保	2	ソフト	医療従事者確保ができる魅力的な病院	13票
		3	ソフト	医師・看護師の確保に向けて、住居環境の確保や時差出勤・フレックス勤務など働きやすい環境をつくり、職員ひとりひとりの負担が軽減できる病院。そのためにも医療関係者が集合できるエリアやシステムを用いてコミュニケーションが図ることができ、その結果、医療関係者が集まる病院	
		7	ソフト	医師、看護師等の医療スタッフが働きたくなる、定着してくれる労働環境（制度）の整備	
2位	医療情報システム	3	ソフト	オンライン診療や予約状況の確認や混雑状況の確認ができるシステムが整備されている病院	12票
		4	ソフト	オンライン診療の充実やICT医療への対応強化	
		6	ソフト	診療の予約がスマホ等で簡単にできる、院内で待ち時間の解消、必要時に呼び出しがあるシステム導入。遠隔診療やオンラインでの診療や相談ができるシステム導入。	
		8	ソフト	医療情報システムの充実（予約システム、呼び出しシステム、オンライン診療等）	
3位	診療体制	5	ソフト	全世代に対応した在宅医療を支える病院（医療ケア児や在宅で医療機器を利用する患者への災害時対応含む）	8票

1．ソフト面・ハード面別の投票結果

（2）ハード面での結果

順位	ジャンル	グループ	分類	意見内容	票数
1位	災害対策	2	ハード	大規模災害に対応できる施設整備（ヘリポートの設置等）	10票
		4	ハード	拡張性を持った災害に強い建物	
		5	ハード	災害時に幅広い対応出来る病院作り。（免震構造や設備の充実）	
		6	ハード	災害発生時に病院として機能するために、災害に強い施設整備、設備整備を行う。	
		8	ハード	災害に強い建物（耐震・免震含む）	
2位	アクセス・駐車場	1	ハード	アクセス良好で市民が通いやすい病院	9票
		2	ハード	広くて大きい止めやすい駐車場	
		3	ハード	患者さんに高齢者が多いことから、自家用車での通院だけでなく、公共交通機関からのアクセスが行いやすい病院。自家用車で通院される方のために、十分な台数確保（立体駐車場も含む）や病院に直接入れる通路（雨の日でも濡れないルート等）が確保された病院。	
		4	ハード	自家用車がなくても（運転ができなくても）来やすい交通手段	
		5	ハード	市民にとって、通院しやすい場所に新病院を整備する。	
		7	ハード	病院へのアクセス向上に向けた、駐車場の整備や公共交通機関（バス・タクシーの運行時間の延伸等）の充実、市民サービス（交通弱者への対応）の向上	
		8	ハード	病院にアクセスしやすく、十分な広さをもった駐車場の確保	
3位	建物・設備	5	ハード	（整備費用の抑制や財源確保を前提とし）エコや低エネルギー、フレキシブルな諸室整備等、低コスト意識を踏まえた新病院整備。	4票

3．市民ワークショップの投票結果

順位	ジャンル	グループ	分類	意見内容	票数
1位	人員確保	2	ソフト	医療従事者確保ができる魅力的な病院	13票
		3	ソフト	医師・看護師の確保に向けて、住居環境の確保や時差出勤・フレックス勤務など働きやすい環境をつくり、職員ひとりひとりの負担が軽減できる病院。そのためにも医療関係者が集合できるエリアやシステムを用いてコミュニケーションが図ることができ、その結果、医療関係者が集まる病院	
		7	ソフト	医師、看護師等の医療スタッフが働きたくなる、定着してくれる労働環境（制度）の整備	
2位	医療情報システム	3	ソフト	オンライン診療や予約状況の確認や混雑状況の確認ができるシステムが整備されている病院	12票
		4	ソフト	オンライン診療の充実やICT医療への対応強化	
		6	ソフト	診療の予約がスマホ等で簡単にできる、院内で待ち時間の解消、必要時に呼び出しがあるシステム導入。遠隔診療やオンラインでの診療や相談ができるシステム導入。	
		8	ソフト	医療情報システムの充実（予約システム、呼び出しシステム、オンライン診療等）	
3位	災害対策	2	ハード	大規模災害に対応できる施設整備（ヘリポートの設置等）	10票
		4	ハード	拡張性を持った災害に強い建物	
		5	ハード	災害時に幅広い対応出来る病院作り。（免震構造や設備の充実）	
		6	ハード	災害発生時に病院として機能するために、災害に強い施設整備、設備整備を行う。	
		8	ハード	災害に強い建物（耐震・免震含む）	

３．市長講評

６月、７月と続き今回3回目のワークショップについて、皆さんのご参加で本日結果の報告をいただくことができた。本当にありがとうございました。

令和５年１１月に市民病院を移転改築するという大きな方針決定をしました。そして現在に至っています。１回目のワークショップではみなさんは入ったことがない院内も含め、しっかり見ていただけました。私自身も地下の設備室を初めて見ました。また、診療体制も含め病院の現状、これから先の東三河北部医療圏の医療需要や、入院、通院の割合がどのように推移していくかなど色々な観点から説明させていただいたので皆さんに深く認識いただけたと思っています。それらを踏まえて２回目のワークショップでハード面、ソフト面でどういう役割、機能を期待するか、どのような施設、設備、サービスを望むのかについて意見を出してもらいました。皆さん自身やご家族が、新城市民病院で診療を受ける立場になったりしたらどうだろうか、病院で働いている立場でどう思うか、何が必要か等、色々な観点でみなさんに意見を出していただけたと思っています。今、2025年ですが高齢者数が全国的にピークになる2040年問題といった時代、自分がそういった年になった時も想定して皆さんに意見を出していただけたと思っています。

今回のワークショップの意見出しの中で色々な大変重要なキーワードをいただきました。新しい病院の基本構想を作る段階で出来ることと出来ないことがあると思いますが、その重要性をこれから先の１５年後、２０年後のこの地域の将来像を見通してどうしても必要なもの、出来ないけれど医療連携でやっていくこと、また、別の形で実現を図っていくもの、そうしたことを整理して基本構想をまとめていく予定です。令和８年度は基本計画の策定を進めていきます。その段階で次のステップに進めていけるかきちっと精査をする段階となり、今後も重要な局面があります。新病院の建設は大きなプロジェクトであり、大きな事業には大きな困難が伴います。ただ、こうしてみなさんが熱意をもって将来に向けて希望をもって意見をいただいた、この希望が叶うように希望が実を結ぶように、きれいごとではなく市、職員、病院、病院職員、市民の皆さんと一緒になって発想の出発点が希望に向かっていこう、こういう考え方でこの事業を推進していきたい。

これから基本構想をまとめる段階になっていきますが、皆さんには引き続き必要な情報提供をしながら、必要な意見を聴取しながらしっかりと事業を進めていきたい。

最後になりますが、みなさんのこの間のご協力に対し心より敬意、感謝を表しますとともに、これからもご理解とご協力、サポートをお願いしたい。ありがとうございました。